
シュークリーム/銀新

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シュークリーム／銀新

【Nコード】

N6622A

【作者名】

深海

【あらすじ】

BL注意。甘いものが大好きな銀さんは、シュークリームを食べる新八を見て……

「新八い…腹減ったあ…」

やる気なく、ダラダラとソファーに寝転がる銀時。向かいでお茶をすすっていた新八は溜め息をついた。

「全く…ろくに働きもしないでダラダラダラダラと…そんなんじやいつまで経っても彼女できませんよ」

「うるせーなあ。わざと作んねーんだよ。俺がその気になったら三股はいけるね…いや、五股か？」

「はいはい…」

銀時の言葉を右から左へと聞き流し台所へ向かう新八。
数少ない依頼者…結局依頼はせずに帰ってしまったが、その依頼者が持ってきたシュークリームがあったのだ。それを皿に乗せ銀時の元へ運ぶ。

「でかした新八！これぞ銀さんの求めてた糖分！」

「わかりましたから…全部食べないでくださいよ？神楽ちゃんのもあるんですから」

そう言つて嬉しそうにシュークリームをむさぼる銀時を横目に、自分もシュークリームを一つ手に取り頬張る。

「なんですか…」

自分を見つめる銀時に気づき怪訝そうに問う新八。

「ちょ…銀さつ…」

銀時の顔が近づき新八の口端を舐めた。ニヤリと笑う銀時に、顔を真っ赤に染める新八。

「なっ…何してんですかアンタ！セクハラで訴えますよ！？」

「うるせーな…口にクリームがついてたから取ってやったんじゃないか」

「そんな物拭けば…って何してんですか！止めてくださいっ」

新八を無視して悪戯な笑みを浮かべ、新八の頬や唇にクリームをつける銀時。

「いただきます」

手を合わせてそう言うと新八の頬のクリームを舌で舐め取り唇を塞いだ。

「銀さっんっ…！」

口の中に侵入してきた銀時の舌は、クリームのせいか甘く感じた。なぜか抵抗できない新八は、銀時の服をきつく掴んだ。

「甘い…俺の好きな味だな…もっと食べろ」

とっくにクリームなどなくなっているのに、再び合わされる唇。
とろけそつに甘い口付け。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6622a/>

シュークリーム/銀新

2010年10月10日08時55分発行